

遠 13  
2209  
68



繪本豊臣勲切記七編卷之八 目錄

七方接戰盛政獨規秀吉 属 眼光射猛

同四 七方接戰 同圖 盛政規秀吉

清正化雑兵極楽田勝政 勝助練主

同圖 清正勝政

毛受勝助主の馬標乞得る圖

七編卷之八



先受勝助兄弟代主戦死 属 鴻代勝助

秀吉寛仁瘡名小笠と覆せしむる図

先受久太弟の戦死の図

先受勝助戦死の図

勝家退路率心投府中城 属 利家全義

利家の信情勝家小飯と勅むる図

繪本豊臣熱切記七編卷之八

櫻澤堂山 編輯

七言接戦盛改獨観秀吉属眼光射猛

主い英濃改小五色の国旗を作る小是即尚才智也。智を以て旗の乳を用ひ。是れ遠地より生竹の商標を作る小勇猛の猛と竹小頭を君臣の如く對するも。後小強よ此君の響に亦此所あるべき也。天よく此小君臣を値偶ありしむ。奇なる我徳なる我強りどよ小国の精勇士原。柴田凌見あんど七言よりまよく盛返せしむ。健くをすしやさしとさ。奉止。天も威あるところなりや。此國勢の隆のうらみして。撃拘得る。其首の凌野日向





門ハ原劫を誘と一隊よ合返して烈戦しけるおろふ。  
 糟屋助ちあつ衣則虎怒して突殺しけりそまは。神戶  
 も原も右煩左悩し。駈率の文なり大將の滾々たる血  
 場は沈寂夫瘡鶴衣の如く。屍と礼しと戦死せり。まのさ柴  
 田権六ハ青木勘七長井五郎右衛門と左よ向じ其方の右の閑  
 道も直地ハ羽柴の本陣處て自勢と懸す。攻登相いさな  
 ぐ。膠風の土砂を卷より狂暴く山と鳴し岩を嚮し。  
 嘍と声は進る機舎う。遠方一向ハ羽柴の勇士ハ平野  
 権平長康し。これ又隨ふ今井正田崎二百歩計馳下り。暗  
 と邪方を視却ぢ。青木長井のあ勇士虎と呼龍と叫で。勢  
 威猛攻未と権平長康石頸の矢行路よさ場又歸と止め。柳

牙後の三人張小。鷹羽の瀟矢引搭ひ。弓ハ三五の月らと  
 看る際小。弦音高く切て放て。現違もは勘七が眉間と鞆  
 の着際まで。篋白ハ馬殺と射抜きて。苦とも叫む。鞍が  
 根より。地响させて轉落。然ども必死の业國武者。更におそ  
 る。突戦しける。権平乙矢とさし搭ひ。羽响もる。とく放  
 つ矢ハ。長井五郎左衛門が胸滿と。射抜て馬よりお落を。不  
 得小銃と。一业國勢も。これ小銃氣と折りきて。僥倖不あり  
 と平野が自勢勇と振ふる。攻着と。一度小山攻樓却せば。  
 足行漂る。业國勢。突犯らまで。淡雪の殺風ハ裁ら。後  
 く。洞岡山際岩が根樹下。亂殺せり。きて今ハ。員と屋  
 して撃ま。けり。然る小柴田権六ハ弱年冠の傑氣ハ掃



佐久間玄蕃  
死生を決す  
再登の軍  
賊嶽を  
七方より  
戦へしむ



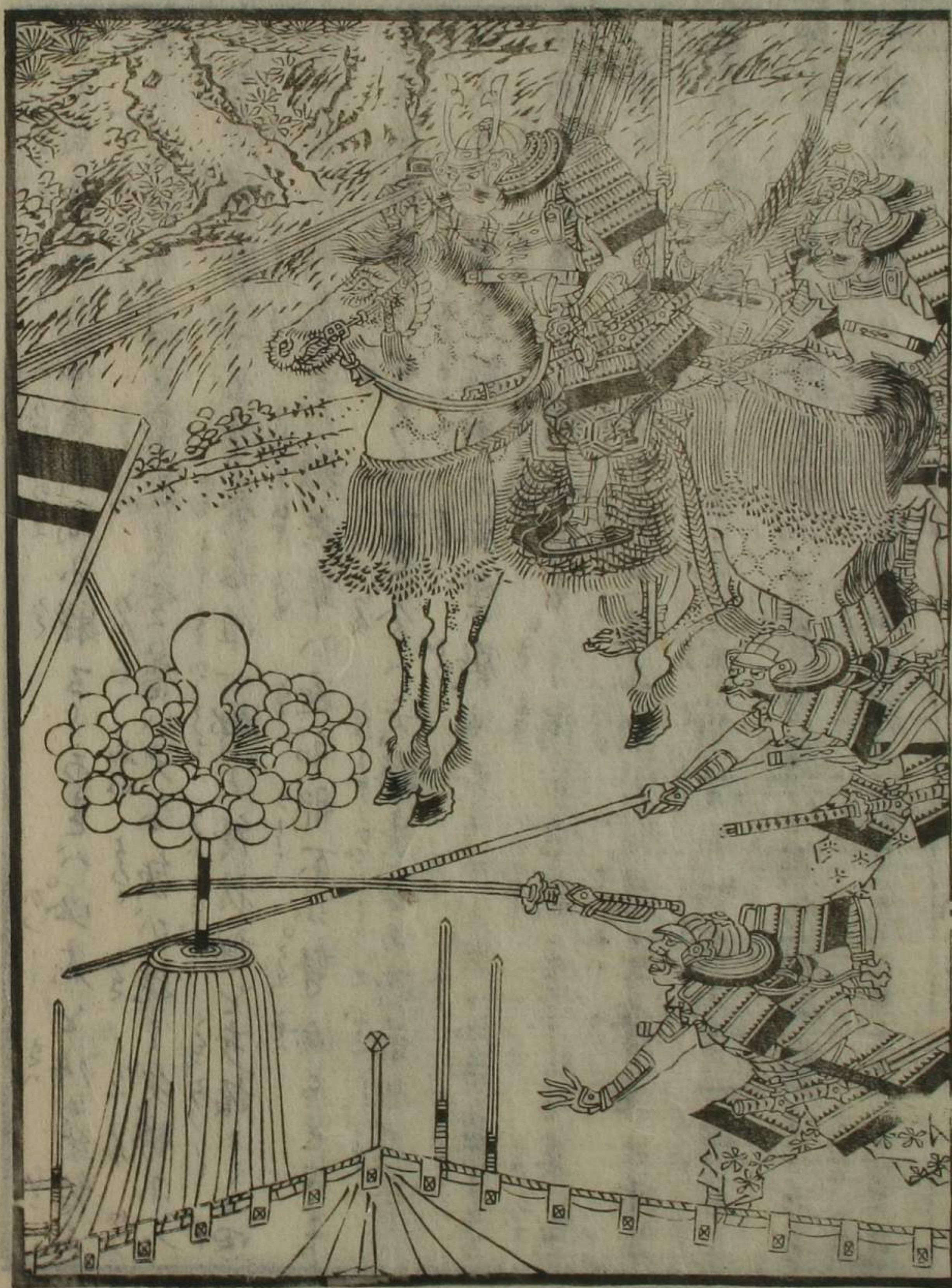
一鴻と烈火の如く。秘出を陰尖。遊る不際なく。怜悲。正解不遊  
 んぶら豊嶋伴兵衛。赤緋。後息。背も微塵不突殺せしむる。こ  
 きふも併まは。毛屋新内。玄蕃と擁護て。元桐不突て。葛万と  
 助作が馬前後の老童輩。刺ます。と推投。相亂陰の中不  
 撃投し。遠際不玄蕃盛改。八。阻路。逢不。馳登る。備不。柴  
 田三九。束つ勝改。へ。同トく。相柴が本陣さし。て。無二無三不  
 攻登怒声。活く。指揮する。不。斜隊不。進む。百餘人。死  
 と。顧む。我ふところへ。腹取甚。肉。康治が。一隊の強。兵。面も。觸  
 らむ。大。陣。輪と。轆。ま。如く。火。烟と。放ち。て。退。高し。右。横。左。縦  
 不。突。伏。雜。伏。烟。せんとし。と。接。起。り。を。ば。北。軍。これ。不。當。が。と。く。  
 千。雷。撞。て。百。木。と。碎。く。が。如く。散。亂。を。し。親。臨。り。を。と。も

其子これと。授ること。よく。主殺。する。を。と。も。居。救。り。び。決。死  
 狂。不。奮。動。あり。怒。つ。破。を。つ。刺。番。つ。對。敵。と。擡。り。て。名  
 々。不。だ。谷。不。叫。べ。ば。峯。不。こ。ご。ま。し。樹。同。不。挑。め。ば。岩。が。根。ま。で。  
 振。動。さ。さ。し。む。大。合。戦。不。今。や。天。地。も。崩。べ。う。漫。然。し。と  
 怖。畏。去。る。迄。响。既。不。上。音。勢。枝。葉。こ。の。總。軍。勢。一。同。不。飛  
 起。り。を。ば。後。が。嶽。の。本。陣。より。抗。隊。の。體。本。ま。で。三。十。餘。町  
 が。其。際。峯。不。も。谷。不。も。林。野。不。も。人。馬。の。叫。喚。炮。矢。の。奮。鳴  
 万。双。の。火。怒。固。く。と。して。山。野。と。焦。し。千。殺。の。血。波。滾。く。と。し  
 て。岩。石。と。深。を。せ。然。が。嶽。不。ハ。七。箇。不。と。同。時。不。挑。争。不。陽。叫  
 東。野。田。津。の。法。隊。も。各。々。切。誓。と。競。ひ。勇。氣。と。懸。く。他。軍。も  
 自。方。も。一。足。去。ら。む。同。ハ。瞬。を。面。へ。顧。ら。む。塵。不。と。んと。亂



戦せり。新の如く諫本情。おもひくみ分敷一々。送虚と  
 視徹一玄蕃盛政頼て段々一分配の計略既不成り  
 と。兜の領と絨上帯と結ひ整へて獨り馬の鞍揺卸し  
 て腔止と袴纏。建熟る。淡材棍と眩眩不推込唯單袴。咽  
 徑崖路若別あり。人も通るぬ絶壁断下と。腕の賽りつ地  
 向ふ不。厚牙大膽不故の盛政袴する馬も世不勝是し。無  
 雙の發足ありり。是は。苦もあく結らぬの絶頂あり。將  
 柴が本陣不迫づきり。近時七方の合戦へ正最中不  
 り。是は。本陣殊不微勢といひ。近士扈從一人も。不  
 勇士ありざるも。方僅盛政が潜進一。以。雜兵致平侍  
 看よりも。驚顛まることおちる。是は。是れ。是れ。是れ。

えて周章連四。岩陰拘回不解る。あまは。必死と決めて響ふ  
 あり。右往左往不散乱也。玄蕃ハ大小飲び饒る。矢騎不入  
 て馬と躍らせ。やおま。秀吉唯一擲と。淡材棍と歩振る。曰  
 角八面不擲起も。雜兵軍ハ返而那不。轉論らきてこち  
 まち不。殘敵不矢。今ハ大將秀吉の所。前咫尺不  
 り。小なり。寬勇猛威の肝柴殿も。おもひか。かき車ある  
 由。其太甚危ふく。懷念ども。了得の名將を。一も其色  
 と見せ玉を。床机と放き馬不棄ども。暴勇奮烈の世不  
 雙びなき。鬼とも字むら。玄蕃元不。斬向ふとも。勝なき  
 や。あ。所と遁き人。其際隙。一肘の間の近。りなき  
 へ。方僅一期の極ありと。心を決し。其のなきども。八量名



智る迄那小迄んで出ハこそ肩と擧めて立玉ふ玄蕃ハ  
 不天の脱与所糸赤は羽柴秀吉集一人と擧拘ハ彼軍却  
 て凱歌と擧本意と遂んハ此ありと天へも登る意味ハ  
 十分不勇氣と會ハ山とも吞まんむ大口開ハ小羽柴  
 義守秀吉鬼神と号ま一陽泉ハ股服佐久同玄蕃  
 盛政あり其不動く赤と呻る大音岩と振ハ樹ハ  
 一耳も裂るむくり不响ケ微塵ふるさんと待擬抗  
 あり。危中と看まて進んぞ。秀吉まこ一も動ト玉えむ。  
 自然不備ち威と整一。鞍重石長不実立揚り兩眼  
 と視肝五ひびらうあるハ下節むぐと瞬着ふふその威柄  
 瞞くとして眼光突一。磐石とも射碎く如く声ハさ

ぐ百千の雷も一時不零るとむくり。最漫く神相不。鬼  
 とも物ぐ玄蕃盛政遠威不怖きて首拳らむ。主まら  
 斯の如くある不。誘る馬のいつてう繞まん。懼怖き三回む  
 くり。聲退して動を憚む。渾身と揺振た一汗と流し。  
 立竦不あり一は看て。玄蕃盛政齒と齧一。最朽慄氣  
 不韁揺繰進まんとむれど馬ハ更く一寸も先へ進得む左  
 右ま。除不四方より。捷軍と看へて繞呼あ一。諸勢一  
 時不本陣あて。退返来る態ありらら。中不も正先不  
 馬と跳せて。斥捕助作とぐめより。玄蕃が趾と慕ひ来  
 大将危急の態と看るより。狂氣の如く弛着て。怒  
 活く擧惹る。斯てハたや偶ふま一と。慄念あぐるも玄

蕃盛改。是非なく馬と退返し。たり。そと、日つら。察。响  
へ。王者ハ亡セむの哲言も。思。ありて。羽柴殿の神威。將風  
天然と。身不備。ありし。こと。儼然。たり。強。不他。年。大。圖。乃  
職。不任。して。天下。と。握。し。四海。と。知。し。め。さ。り。強。證。大。ある  
哉。運。君。不。ふ。ん。有。ぬ。べ。し。

清正實雜名極柴田勝政 屬勝助隸主

神龍渭水不武王の危と脱。以。純。祈。山。不。蜀。帝。の。難。と。避。く。  
天。より。助。け。人。より。相。く。豊。公。此。不。盛。政。が。危。急。と。適。き。そ  
つ。ら。其。威。と。発。ま。る。こと。言。語。絶。論。と。謂。つ。べ。し。粵。不。柴。田  
三。方。兼。つ。勝。政。ハ。服。坂。が。孫。子。謀。合。せ。火。燭。と。散。し。て。戦。ひ。ら  
る。が。大。將。絶。ま。で。激。ま。と。り。ども。從。兵。倭。僞。不。亂。起。逆。不。崩

嶺と退下され。趨く不ふ。へて。逃。散。り。と。服。坂。主。從。統。く。不。勇  
で。息。と。も。次。で。退。起。こ。勝。象。の。本。陣。ま。で。も。お。破。ん。推。出  
ま。それ。わ。り。り。ら。ハ。七。方。の。法。將。を。れ。お。ら。し。と。貪。等。し。く  
柴。田。依。久。間。が。軍。勢。と。退。逼。り。と。接。起。り。不。ぞ。見。困。し。く。も  
女。着。ひ。立。足。も。あ。く。故。軍。を。中。不。も。加。差。清。正。ハ。半。血。鮎。不  
織。り。と。る。彼。生。竹。の。高。標。推。標。風。不。疎。が。猛。虎。の。像。く。と  
つ。く。と。して。退。惹。り。ら。が。嚆。矢。東。山。不。不。の。め。と。と。り。り。と  
高。標。明。顯。不。見。え。り。ら。ゆ。え。故。軍。お。り。不。懼。を。怖。き。殊。不  
武。勇。絶。倫。ある。虎。之。助。と。着。り。り。も。唯。あ。ま。く。と。指。高  
合。て。一。個。も。迫。つ。く。軍。不。ら。ま。バ。清。正。儼。と。工。支。あ。し。高。標  
と。逼。し。境。と。脱。奔。彼。率。が。被。る。戦。笠。事。被。雜。名。の。お。扮

分 一。良敵もがふと進ぶ。返响柴田三九来つ。自軍の故  
 軍と大不耻。遂あり。自の兵返せ。疾せと。呼ど叫べど。所投  
 ねへ。勝政おあひ不憤。激あり。今へもやれまてあり。生く  
 被降し帰らん。死して汚名と雪ぐん。ふへと。只軍跡不  
 て取て返せば。走武者の其中。あも。我名と重んぶ。徒兵  
 軍。三百餘人。勝政の後。跟不継て。率返し。今とくま  
 と戦ふ。不行。夜。双羅刹鬼。が。解象の。肉と屠る。如く。あて  
 故。三四十騎。と。擧。拘て。暴。不。虐て。を。殺。ひ。り。り。踏。不。後。四  
 勤。兵。清。重。綱。享。年。元。有。二。歳。傑。氣。強。盛。の。壯。勇。士。一。火  
 二。尺。向。き。所。裂。の。大。高。煙。あ。て。老。童。率。伴。池。来。り。柴。田  
 勝。政。不。轉。て。菟。り。激。水。石。と。動。ま。如。く。烈。火。の。湧。と。盪

たり。不。返。つ。返。し。の。接。合。し。く。後。田。が。隊。不。百。餘。人。刀。上  
 陰。下。不。轉。扱。バ。柴。田。が。隊。不。も。五。十。餘。人。極。扱。ま。さ。る。の。ま。あ  
 ら。ぞ。勤。兵。清。も。強。く。戦。ひ。り。り。由。へ。五。口。所。ま。で。不。勝。を。被。け  
 る。不。ぞ。震。响。休。息。あ。さ。ん。む。と。後。田。自。勢。と。退。ら。ま。れ。バ。柴  
 田。も。共。不。退。去。て。姑。く。息。を。休。め。り。り。機。合。う。ら。加。茂。清。正  
 ハ。响。隊。の。雜。率。不。立。混。退。返。ん。と。ま。る。勝。政。が。跡。と。慕。ふ。く。返  
 来。り。突。と。走。進。て。三。九。来。つ。が。腋。肘。目。的。て。擧。菟。る。城。潜。り。ら  
 ぐる。夜。捨。面。と。鞆。腰。拵。て。清。正。が。突。出。鈍。尖。と。避。る。際。不。登。く  
 も。走。進。り。勝。政。が。陰。下。潜。て。一。刃。攻。去。馬。の。膾。臍。と。我。彼。と。突  
 ば。ま。こ。し。も。堪。ら。む。勝。政。と。鞍。より。頭。顛。度。驛。落。ま。杞。し。も  
 立。て。む。虎。之。助。捨。折。敷。て。膝。下。不。踏。着。速。く。も。首。と。擧。到。て。



加藤虎之助  
 馳卒の打拵  
 志らく柴田  
 勝政を  
 撃退す



繞くくして退返す。それわたりうへ柴田権六勝久も。既不  
 危ふりりると。佐久間盛政遙不着て。いでや助得させん  
 と。馬前の故と擲退去。卒く戦ひ困下つも。権六不迫づ  
 きて。盛政足下と助けん。蚤くもろく不來りつるぞ。勇氣  
 と勵ま—這圍と。遁出よと叫り乃まば。勝久これ不替力と  
 得る。まをく。千變万化あり。虎憤鬼怒して戦ふといへ  
 ども。山谷林野不満ぐる軍馬。都て羽柴が勢ありりつるぞ。  
 傍て佐久間と着るものと。おどろ遁して通をべき。百重が  
 狸不取稠んと。後節同佐て退逼り。斯てハ容易不遁を  
 ぐ—と。上帯斬奔皆具と脱。彼率不態と變つるも。権六  
 と中不擁覆。岨の背徑扱棘溪。抜つ潜りつ落性なり。これ

不因て越ヶ嶽の嶺より下ハ三寸の隙も。死ありざる不  
 く。強く耳目と頼せり。然不と不北國の總大将。柴田修  
 理進勝家ハ。毛受勝助。同久右衛門。松本甚台。中村其左衛  
 門。倚と従へ。孤塚不本陳と固め。佐久間が軍の勝劣と。い  
 不くと待ところ不。越ヶ嶽ハ再度まで。合戦故とて記脚不  
 く。千嶺百倒山となく谷となく。退崩されて見困—くも。  
 北と當て放走去。這响ハ是天正十一年四月九日の卯の中  
 刻。曠旭東嶺不昇ること。腫くとして州も樹も。赤色光ざ  
 るところもか—。羽柴秀吉時こそ互りまると烈—。令と  
 傳へ玉ひ。其ハ馬慄と進むべ—と。命の下より大谷慶松  
 か—とまうひ。河馬慄と揮記く。嶺と傳ふく。馳出せ

千餘額ある親執子執。金の光の職不輝き。十里の外まで看彌るふぞ。まをや進めと上方の。佐方の軍勢東野山なる菅蒲谷より。堀久吉部秀政。結が嶽より。志田の軍勢。素山羽根田大坂山より。蜂須賀父子。同トく木村小集人。成島田神山より。長濃守秀長。言山右辺長房。其外筒井未松。明石神子田木下生約の門く。若らどもものと江山一時小震動もるまで。喊と佐て馳出。次第々々小突殺まること。暴風弛雨小雷電と載て陥る。雲の像く。石炮鐵矢と飛。一蕙。從横無礙不攻記。るもる。これごとく小旭の光も腹腹として隠る。むらり。今や天地の混沌あふんと。おもふも愚あふざりたり。這時柴田勝家。自方總攸

軍の報と聆。然こそあふめと既小心の期る。あまは。今更怒る。気久もなく。旗本勢と魚鱗小纏ひ。佐久間盛政と救。おんと。推発さんむするところへ。水野徳兵衛。ハフふり。使報と走らせ。玄蕃允殿合戦利なく。後小巻ふくは。ハバ。救こそせ。あへと救らる。小を。勝家まま。く。勇氣と烈ま。一。勃然として。旗本の勢。いくむくぞと。晒る小。寂這地。小。備位。胸。七千餘騎と聆え。も。攻勢。く。小。落失て。謝。く。二千許。小ある。然ども大猛絶倫の勝家。存び。隊伍と立整。一。其ハ。謂れども戦死と。期。る。顔色。顔。ま。る。小。ぞ。先。多。勝。助。速。く。も。察。知。一。勝。家。が。糸。小。進。ご。り。升。も。運。勝。助。家。照。ハ。原。來。尾。か。春日井郡。綿。登。村。の。産。小。一。七。十三。歳。の。昔。より。勝。家。小。勤。仕。



夫一。武勇智謀ふつあが。無不勝とてりたれば勝表殊不  
 寵愛とて色勝表の二字と賜りて。初へ庄助と稱へると勝  
 助と書華め。照景ともて家照と号しり。响小勝助末前小  
 進と出洞と正して稟しりや。主君の武名天下小高く。  
 勳功まつと變ぶるふ。然る不遠量の合戦と事として。  
 万一中途不異あは。末代までの耻辱小して括憾くこそ存  
 せ玉ひ。然るべう存トてまらる。斯ありもて。這期イ  
 至り。いさや。不懐念とも。自分多く戦死して。今ハ遁る。送  
 ありらん。快と送場と落させ玉ひ。殘兵と集め玉ひて。北庄不  
 對凝守。上方勢と對向玉え。平生の智勇と施し。まひ。

幾次も故と駭悩。念長不台戦せら。御運彈とせ玉ひ  
 不バ。其响小こそ際く。序生害ま。まらべ。其義不つきて  
 小居へ。御姓名と御馬標と。脱し。遠を賜ち。這地不溜  
 り死憤と飛し。一途不防戦つら。秀吉何百万條誘不  
 て。遊蕩来り。いと。若御親と解させ玉ふ。それまで。誓  
 不故。一人も。蹟と慕。を。ま。快落玉へ。こと。尤  
 おる。一。陳。若。と。勝。家。聆。て。今。小。を。め。ぬ。汝。が。忠  
 節。感。む。る。不。難。得。り。あり。然。とい。へ。も。武。門。不。生。ま。て。死。せ  
 ざる。响。小。死。せ。む。ん。バ。死。不。勝。り。る。耻。辱。あり。近。き。劍。へ。眼  
 箱。兜。秀。山。崎。小。して。戦。死。せ。む。其。場。と。適。ま。不。栗。栖。あ。え。  
 土。民。の。お。不。落。命。せ。し。が。我。も。這。場。と。退。ぞ。う。ん。集。み。ひ。と

一に耻をや受らん。殊不汝不先さちて。退去性も不仁あり。  
 縦今遠地と遁るるとも。筑前守が速きことハ霹靂火より  
 不お結し。いふ不防我まといふとも。追来らんこと瞬時な  
 り。如き這地不潔く故と引承一我あり。愉快我死をべ  
 しと必死の氣欠不着えり。りりと勝助猶も推返へ  
 説意其理不稱ふといへども。真理ハ然不ひまド。彼時明  
 智光秀も。齋及利三が禱を用ひて。そを由不こそ小栗  
 栖めて。最期不不覺と取ひ快山崎と返取て。坂本うまこ  
 龜山不堅く牢攻つらまつらば。勿く急不ハ滅ぶまじ。名  
 將ハ只死と躲し。款と苦しめ。疑をしむとこそ所承る  
 是賢君ハよく良臣とし。忠と達せしむるものなる不。

勝家の  
 馬印と  
 おんい  
 柿ふき  
 お耳別  
 されい  
 へいと

斯言切なき詞と宣ふ清意あて。よくも大志とお布しめし。  
 達せむふものふぞある。倘清承保なき响ハ。勝助只今腹  
 搔到徒不死去つらまつらんと。暴く志く稟し。らうち款  
 興速くも迫づいり。勝助亦も敵と烈ま。おま清覽せ  
 上款ハ右や。所陣迫不進ぐり。先受勝助不屑不ぐ。紀  
 信が忠ん義志と學び。清身代不達まいらせん。所馬標  
 と揚るべしと。身然止不し。禱めりる不ぞ。鬼と呼まし  
 勝家も。勝助が忠義と感ト。潜然とし。涙と流し。いと  
 不も汝が稟を如く。忠義おめで。諾受し。りりと。自づ  
 ら清幣の馬標を。勝助家照不脱へら。是具足と姓名とと  
 譲らまされば。傍不見り。諸士ハ更あり。傳へ聞つる



豊臣 巴 一 野 次 左 衛 門 守 久

〇 十七



毛受勝助武  
吾馬標等以  
公々勝家の  
變体小戦外  
せんや決覚  
まゝる

豊臣 巴 一 野 次 左 衛 門 守 久

〇 十七

軍まで落後せざる軍ありき。これ不周て毛受勝助勇気  
快然として陣幣と戴き。殺不切ぐとを徒意うふ。生涯の面  
目このうへありと。躍揚く。敵び獲て見へり。ハ至忠あり  
ぶものありき

毛受勝助兄弟代主戦死属 鳴伐勝助

臣有が由る。君の仁徳大不顯。君あるが由る。臣の忠  
信償せらる。至忠あり。哉死と以て。君不代る。縛と然。毛受  
勝助家照ハ。主君勝家と諫諾せしめて。歡悦する。縛く。死り  
なく。先第三の弟あり。毛受庄左衛門照行と。迫く。招き。我ハ兄  
久太弟の照景と共に。這所小戦死ふまべり。汝ハ主君  
の侍供して。首尾よふ。此の庄小立歸り。侍先途と守徹ま

わらむべし。かたむらむ。疎忽あるべし。はと。稟し。なる。不ぞ  
在。来。照行。者。貞。忠。信。の。義。不。責。ら。る。否。とも。言。は。せ。應。言。と  
も。ふ。い。ふ。い。と。く。心。憂。君。臣。兄。弟。の。離。苦。愛。嘆。言。結。不。も  
復。演。聲。され。む。然。ども。死。ま。へ。を。命。期。ハ。速。き。と。遲。さ。ある  
の。こ。み。して。若。と。共。不。戦。死。ま。る。う。兄。と。共。不。戦。死。ま。る。う。一。二  
の中。と。出。ざる。もの。と。と。覺。期。と。決。して。兄。不。對。ひ。い。ろ。不。も  
舎。兄。が。仰。の。如。く。主。君。の。侍。供。つ。ら。ま。つ。ら。んと。諾。答。し。ら。る  
と。勝。家。聆。て。奇。し。き。忠。魂。義。膽。の。兄。弟。這。兄。不。して。這。弟。お  
る。こ。こ。ハ。寧。不。天。生。あ。ん。ぬ。べし。是。も。勝。家。が。家。の。面。目。三。命  
ある。忠。節。ぞ。と。泪。と。共。不。感。佩。せ。し。是。二。千。餘。人。が。そ。の。お  
ろ。より。倔。強。の。兵。五。百。餘。人。と。領。規。へ。追。來。敵。と。喰。止。べし。と。

命と云ふ勝助家照斜たらむと歎然と自の勢三百餘人  
 と合せて雑兵と共ふ一千餘人抗塚不備佐と達んとす  
 と兄久右衛門勝助不言乃る也。此地へ進退場備ふして  
 と拒抗不便宜より。主君の滞視送かこぐ。小谷の報西  
 小喰止べし。抗塚より十町許引退き。今市の西北に小谷  
 所原陣と居。金の滞幣の馬懐と推き丘小樹させつも。進  
 来る款と待受たり。這不至て大將勝家切ある毛受兄弟が。  
 赤忠厚及ふ心残り。離別の情の惜まきて。依く戀くと離を  
 ぐとま。庄名東照行靴と把て北に向あ。く。牽立ら  
 る也へ勝家は源よふく洞と共ふ。勝助侘不別離と告哉前  
 て牽退く。備亦上將羽柴殿ハ。縁が獄と下させ玉ひ。徳名不

嚮ひ令一玉をく。是より故と退菴るとも。くふらむ長退中  
 べく。茶路へ都て山間各隈殺し要害の境所多く。殊に大  
 將勝家ハ。佐久間吉蕃と事遠ひ。老切の武士おまむ。隊伍と  
 設々に防戦まべし。歎くべきの故不あむ。先く自方の徳  
 勢と集せよと。集法標と命属られ。諸方の軍馬と北條吾成  
 大芝原不招集め。是より人殺の部して甲曾楚と緘整させ。  
 馬の立相進退まむ。猪しく指押と傳へらむ。路頼へ引導し  
 む。是廿一日の辰の上刻。一天寸雲の生むるあむ。初夜  
 とへへど天氣熱く。日光血場と照破まむ。他兵自方の  
 差別と知ざる。骸屍共算木と擡して横とひらむ。乗吉不便  
 小おがしめされ。死しむる輩ハ是非おし。息通負痔の兵



神皇正統記 卷之六十八



ひでよし かんじん  
秀吉の寛仁  
争ひなき  
田夫小笠と  
とく 残兵の  
苦痛と  
あきらむ

神皇正統記 卷之六十八

軍ハ。法暑あつても日不照されて。さぞらー辛苦不堪ぐと  
 うんと。向の丘を視むへば。遠近隣の郷民軍男女老幼も  
 混じて。雲霧の如く在り。不指し。彼率軍不命属られ。彼  
 方不命属なり。在る軍の被る。後笠借取来。是日復  
 と被ふべし。命を受けて。馳率軍數十人走り。性卿民軍が  
 冠在る。後笠を乞取来り。遠谷。這野不倒伏。は。負傷軍  
 不覆着。繞不日。曉と凌ぐ。を。母も。豊公の寛仁厚義  
 知ぬべし。然布。不羽。柴。殿。止。方。と。儼。と。所。覽。あり。眉。を。ひ。そ  
 め。て。宜。を。く。柴。田。勝。家。猶。い。ま。ど。引。退。く。べき。際。も。不。さ。不。落  
 失。る。相。あり。り。の。異。を。そ。あ。く。め。と。命。の。言。の。終。ら。ぬ。中。堀  
 が。注。伸。の。紐。馬。来。り。勝。家。夜。の。向。不。狐。塚。の。陣。を。拂。ひ。落。失

ころと。おもふ。由へ。猶も。細。佐。と。指。出。し。敵。の。蹠。蹠。を。窺。ひ。は。ま。り  
 へ。小。谷。河。原。の。西。が。丘。不。金。の。所。幣。の。馬。懸。驥。不。輝。き。相。あ。ひ  
 る。つ。とも。其。隊。の。軍。勢。へ。一。千。餘。騎。不。足。さ。る。べ。し。と。報。る。と。秀  
 吉。聆。し。め。し。備。を。そ。勝。家。祖。地。と。棄。て。難。不。不。敵。を。引。交。んと。  
 隊。伍。と。違。て。侍。と。見。へ。し。う。糸。不。紐。る。べ。し。と。命。を。加。後。堀  
 鳴。倚。斷。風。や。お。も。ひ。ひ。ん。斯。へ。云。切。な。き。命。う。な。目的。故。將。勝  
 家。と。眼。前。不。置。ま。が。う。摺。拘。で。や。ま。の。休。べ。き。所。免。を。蒙。り。と  
 不。ま。さ。る。と。紐。出。ん。む。ま。る。と。制。し。む。ひ。汝。倚。然。ま。不。燥。焦。ハ。  
 理。り。あり。とい。ふ。と。い。へ。し。念。慮。の。深。う。は。勝。家。を。ト。の  
 狐。塚。不。陣。せ。し。時。ハ。七。千。餘。騎。と。駭。つ。る。が。今。ハ。僅。不。一。千。餘  
 不。ハ。足。む。と。報。し。う。是。恐。ら。く。ハ。實。の。勝。家。不。ハ。あ。ら。ざる。べし

尚亦勝家踏止らば二三千ハ埋伏して。計儀と布て待るの  
 ありん。うあらし有活不弛進べうらば。時至りあバ指揮ま  
 べしと。旗本勢と休息あさしめ。條君の湖畔不立連ありし  
 木村軍右来つ。小川佐渡守。丹羽筒井脩の二万餘人と顧  
 眄玉ひ。同当款ハ小谷河原不在。をや弛起よと大音声不令  
 一五ハ先隊来る。小川佐渡守其勢合せて六千餘人暮地  
 不弛出し。をやくも今市と跟面不見来し。小谷河原不  
 到やいあや。喊と作て攻起る。毛受勝助斯と宥より。勝家  
 より。場よりし。緋威の大禮不。虎髯髯の星塘面不。逆面延  
 截頬骨深く着索ひ。兄弟共不馬立竝べ陣取不。顔出。これ  
 ハ並國七及の藩鎮鬼神と呼まし。柴田修理進勝家あり。

上方勢不も勇士ありし。愉快決戦せよと。佐母が耳振も裂  
 くむらり。大吉楊て呼より。奥より。大軍の中と忍をもせむ  
 正射不進んで。六千餘人と無縱矢横不。逆起り。不ぞ。兄久  
 ち来つ。も一富不。吠く。敵して戦ひ。は。本村が軍勢忽地  
 不。逆起らして。四方へ。祖と逃散し。首將本村軍右来つ。あ  
 止りて。逆進と呵り。敵ハ。僅不。一子た。む。自方ハ。次才不。銀  
 不。疾り。他軍不。も。私。上。自。方。不。も。愧。て。返。せ。と。声。怒。噴。近。呼。り  
 紀。二。遣。隊。也。と。達。整。し。半。右。来。つ。自。ら。正。射。不。進。め。バ。勝。助。も  
 名。一。層。懸。く。憤。き。本。村。が。初。探。り。来。先。息。の。報。と。止。て。と。是。人  
 と。大。薙。刀。と。三。流。四。流。歩。蹠。ら。走。よ。と。音。隱。も。ふ。く。相。控。ふ  
 と。つ。不。刻。若。ま。バ。本。村。も。目。迷。く。身。と。逃。れ。は。ま。し。と。も。龍。胆。條。り



て半右衛門が肝腹より膝腫まで破哩突通所下られ。凍瘻小  
 堪らざる馬より撞と落るると。木村より從兵衛強き杖り  
 這く引退く勝助家此これと看あがら故と首とも拘むして  
 索の取へ徐くと自勢と率て共小退き。人馬不息と次せり。  
 斯まで軍と緩ふしぬるハ。まこりありとも時刻と後し。主  
 若勝家と落延させんと量理する不承なり。木村が軍勢斯  
 の如く崩起て放走しなむ。これ不代交て小川佐渡守崩  
 る。木村と救ひつも左右不周を佐渡守三千餘人と長蛇  
 の如く。正一門地不突投を。兄久右衛門勝助不代り馬馳出  
 て其際十歩むりり不ありり。响彼方と暗と見環せば。佐  
 渡守正斜不進むと。森と睨心音暴らげ。それ不進来るハ。小

川佐渡守子にあさるる。汝ハ原来江南の六角が譜代の  
 臣として其主人より佐と木不殺し。一遭織田家の榮花不論  
 ひ信長横死し。其後ハ。其怨故する遂城の明智光秀不勤  
 力あり。光秀亡びて今います。秀吉不荷擔をたあ。不義とや  
 謂たん無送とや言たん。主君勝家の御茶不おいら。這世  
 の腫とせんむと。墮雷の像く樹菟る。小川へ飽まむ。愧し  
 めらば。憤怒魁を衝むり。其舌の根を裂きく見んと。噁と  
 喚て突合せ。右不實り左不地技。返つ返しつ奮致を。主將助  
 の如くなるむ。從兵衛とどう繞まざるん。毛受が矢も小川が矢  
 も。奔るま。と苦致たま。あつあも勝助久右衛門。這地と  
 去りて戦死と心を決し。身あむ。陰刀をもて千州の

豊臣日記七巻之二

徳の翻動くともおもさる。炮矢の響と万葉の零散ともおも  
 たりて。走散と踏越跳趨倒るるとも故と喰止放さてその  
 采刺番へ。あるひに樓殺人磚十騎一騎の競合ハ。捨捨矢嘘  
 鳥洗岸撃つ極もつ后時のうち不。小川勢ハ千餘人。毛受方  
 ハ五百人。勢殺せしめて死にりり。勢残されたる兵卒も。  
 瘡と負ざるものもあく。徳身藏ありとり人ども。一足退りて  
 接起り。勝助ハ激登りて勢威猛き小川勢と。一町許追捲  
 り。馬騎疾して素の不。若び隊位と立堅め。姑く脱気と巻  
 ふり。這胸丹羽五郎左衛門長秀ハ這方の三番子備位け  
 るが。今猶瘡氣強く発りて。苦痛堪がらりり。是とも。勇  
 らたくま。うりり。是とも。一も屈する。氣色あく。徳士

子指押して二段不備位大將勝家と惣拘んと。毛受ガ勢と  
 推起巻首將勝助ハいふもさうあり。従名徳て我と重んじ。  
 耻と知る兵卒あれハ必死の心魂をこしも強ハ。意静小  
 腰兵糧と喫し。畢り。敵と眉下際近くる。倚。半量ハよきそ  
 其ハ蒼色と。陽助家照正解。不馬と。延起大薙刀と。お揮し。  
 丹羽勢の射。不延並び。多勢の馬の。攘垣と。四角八面不  
 難起。破伏首。不も。あま。脚。不も。あま。體腹巻袖兜。堅甲。利名  
 の。隊位と。厭。不。單騎。不。殺。発。あ。一。早時。ガ。布。ハ。裏。へ  
 たり。丹羽。方。多。勢。あり。とい。一。も。主。後。一。致。不。激。戦。せ。一。く。足  
 より。此。へ。敵。各。と。一。人。う。り。も。通。偏。さ。を。膳。丹。羽。の。射。勢。と。  
 縦。横。微。塵。不。亂。破。一。り。れ。ハ。勇。士。も。戰。死。あ。一。令。ハ。あ。一

らひぐさくやありらん。丹羽方の斜角の颯と碎きて。成を二陣に譲り。給ことして退ひたり。丹羽が二陣の江口三郎右衛門海口金太尉。村上治郎右衛門侍一千餘人をまこし。も後ゆい直に推進せ。一卒も漏まされ。と攻着るる。小勝助家照雲の増烈然として。兄久右衛門一奔。五百餘人の自勢を懋ま。言低淡深集散離合百遭千次変化。しそ刀曲まむ推整し。槍折まば。或へ給ひ。或へ敵の持たる。槍を棄捨。右ふ繞り方子走り。箭不致。後不隠。虚とめて。開け。バ実戦めて。困落。ぶら如く沈む。如く裂。如く縫。如く練磨の術のあ。らんうきり。血のちどたり。りて怒の如く汗の滴。て確か如し。其が中。おも久右衛門の照景の弟勝助と軽ま。ま。と。

敵の鋭尖をこれひたり。覆が如く身と受て。亂を翻。不突。て廻ると村上治郎右衛門。海口金太尉。左右一吐。不突。菟。照景まこし。も恐臆。ま。而士と相平。不龍。憤。虎。怒。ま。一。猛。断。てぞ我ふところ。不。亂。発。し。る。鳥。銃。の。久。右。衛。門。が。胸。膈。へ。し。つ。よ。ら。一。吐。不。中。り。る。み。ぞ。あ。ら。う。馬。上。不。堪。る。べ。し。撞。と。落。ると村上。海。口。四。平。一。伏。不。捉。て。擁。へ。首。極。落。し。り。る。成。勝。助。家。照。雲。る。より。も。兄。茂。盛。ま。て。何。久。堪。へ。ん。今。う。り。て。顔。色。も。血。と。灌。流。る。如。く。勃。然。と。し。て。先。憤。と。発。し。極。氣。を。し。め。不。百。倍。し。て。牙。失。つ。る。狂。象。が。山。野。に。暴。る。怒。勢。と。奮。ひ。瞬。く。際。に。四。五。十。騎。漁。邨。に。網。魚。と。扱。せ。し。如。く。薙。倒。さ。し。て。丹。羽。勢。の。這。猛。勇。不。敵。し。ぐ。さ。く。法。勢。を。纏。ふ。て。退。拳。し。り。



豊後言十

勝助らう一息次人と。撃破されたる自分と視る。其勢百  
 務不満を以て。それさへ九死一生と見へ。一身百口二百口。深瘡  
 痂を帯ふこと。勢を以て。然れども忠魂我膽烈々。鬼不化るも後蓬く。眼へ退り。輸まじと。眼耳鼻口より  
 怒血を發し。進來る故と瞬着て。烈火の條く突起。上方勢の四の源の陣。筒井倅守入道。明慶六千餘騎。あて  
 勒へ。入道故の戦相と看て。鳴尾。友行。不嚮。今眼  
 茶。不勝。家。衰。落。軍。と。看。あ。う。我。隊。不。合。さ。る。殘。念。さ  
 よ。縱。令。軍。令。不。背。く。も。先。へ。進。で。勝。家。と。擊。拘。べ。し。繞。り  
 り。城。方。近。大。不。制。止。さ。し。帰。る。軍。入。退。こ。と。あ。う。先。隊。の。三  
 陣。交。く。接。戦。さ。さ。ば。業。四。勢。十。分。不。疲。と。生。ぜん。其。响。至。る。と

窺ふて筒井が六千一同不。撃て発さば大田と。達し。あんこと必  
 定あり。姑く試合せよと。時熟まる。と待居り。左右  
 まる際。不毛受が猛勢。烈火の業と焚が如く。三陣共。不崩  
 さき。それく。不引退く。丹羽勢。僅不亂走。と。左。近。友。行  
 儀と視て。今こそ。敵も疲。きつらん。其へ操。発せ。と。指。揮。さ。る  
 不。ど。不。筒。井。の。軍。勢。六。千。餘。騎。三。隊。不。領。部。て。推。出。さ。家。照  
 これ。我。看。より。も。這。軍。こ。そ。勝。助。が。最。初。の。合。戦。あ。ん。ぬ。べ。し。  
 各。こ。も。覺。初。あ。き。と。小。谷。の。河。の。水。昏。揚。い。て。や。情。別。の。盃。せん  
 と。家。照。を。し。め。と。一。口。吞。で。百。騎。不。足。ら。ぬ。面。く。へ。殘。あ。く。飲。饒  
 ら。さ。せ。吐。不。向。ふ。て。一。札。あ。し。臣。勝。助。唯。今。戰。死。つ。ら。ま。り。修  
 羅。の。禰。不。斜。し。て。送。路。と。清。め。ま。わ。り。せん。不。徐。く。所。通。ま。し

嶋左近の

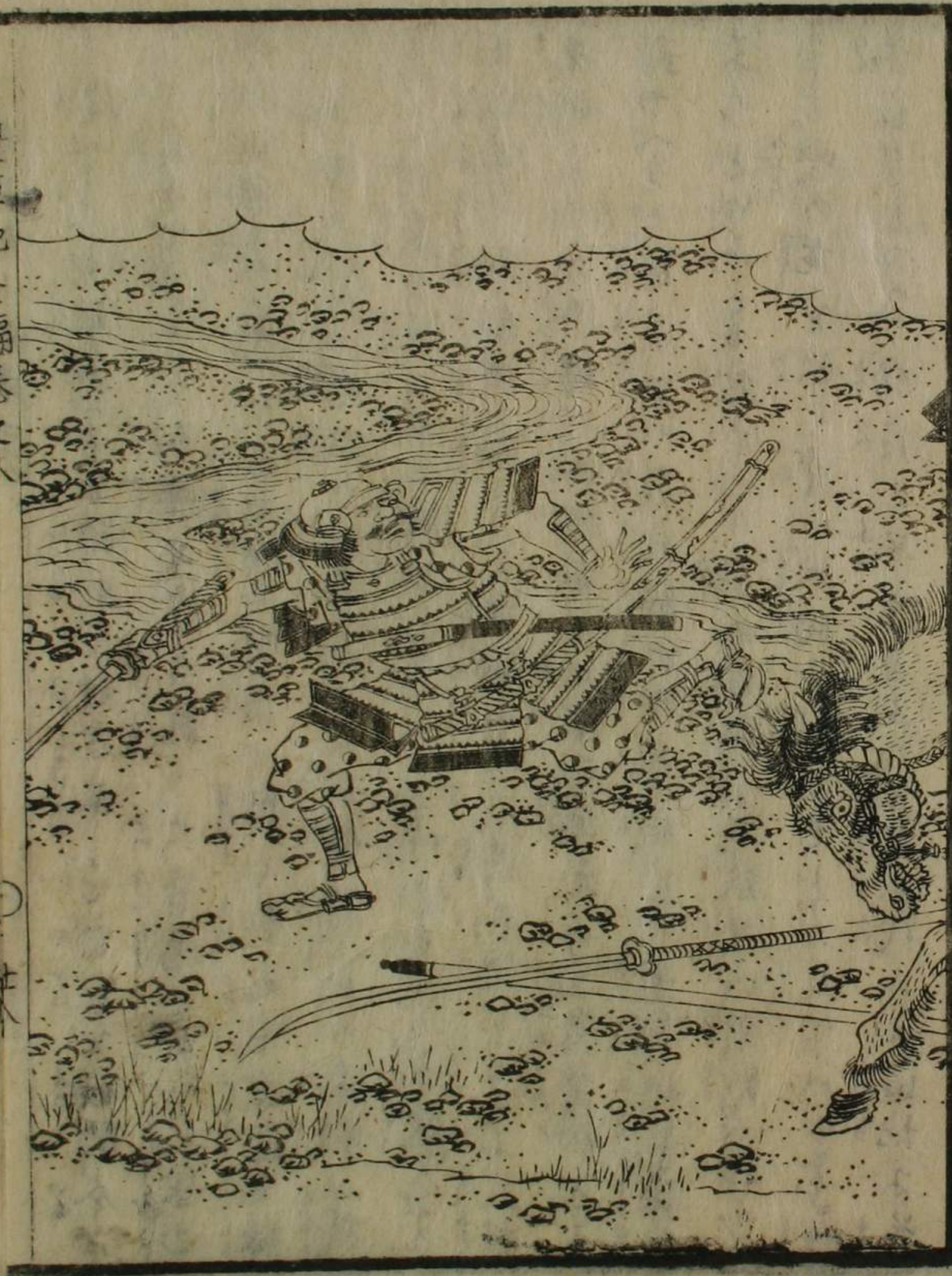
高察

毛受勝助と

看破る

終る其首級

得る



ままへーと。涙ながるる不詳別と教思直して自勢と顧眄。今ハ  
 五 是までありと。鞍層不突立揚り。大音揚てこれハ柴田  
 修理進勝家あるが。今日此不運盡て際く我死を武道と極  
 く率あらば。己が首拘て切替不せよ。方僅勝家が最初の捲  
 よつく視置て後の世不譚傳らるべーと。呼たりつても進んごう。  
 先刻より。の津捲ハ如何不も日本不聞えある。鬼柴田とも  
 謂つべきが。勝家公ハ其年齢六十餘歳ある老體何量猛勇  
 ありといふとも。然ちり腕の強ふして。数度の烈戦ハあこふ  
 まど。兎の鹿と泳く獲ひ半面不顔匿せども。足下ハ何れも壯  
 年あり。とづう勝家と号りよふハ。主君不代りて這地不幾

死あり。主と本園へ落させよふ。大忠信の津捲。勝家公不勝  
 とする名將志未ぐる。足下の首と揚りよふ存トをべふ。斯  
 稟を乃節ハ筒井順慶の執事職鴻左近友行あり。見泰せん  
 と呼たり。天地も親做深智明察。親虚されて勝助家照  
 言向も論さる突と弛進て。血滴瀆こころ大薙刀と轉る輪  
 と揮匝。城んとまれば島左近も先年羽柴秀右より。頂  
 戴不。流氷棟の薙刀横拂。從割右吹左近薙で落せば  
 廣寒宮の氷輪崩零るると怪し。高く薙まば銀河の鏡  
 の碎波不落て。翻るうと驚くわたり。両勇とも不根力のお  
 らんぐびり奮然とし。積年時挑闘ふといふと。久も勝家更  
 不決されば。勝助燥焦て薙刀投棄巨擘拓りて身圍まば玄合

豊臣記七巻之八

七

くりと島元直同トく薙刀後百不極行馬劔倚て無頭と樓  
 合雙方勢力の強弱なきや。山の合さる如くみて霎時ハ動  
 きもせざり。兩馬八足持得志。驥垣と折て倒る。一時  
 小毛受鴻兩勇撞と落ま。四面の山も崩る。とむりり  
 動まる。勝初極勇ありと。いども。殺場の戦不身根疲を。筋  
 かも衰へる。左迎ハ暴卒の勇士あり。満身不有つ臂力の  
 あらどけ腕を極めて緊と擁橋終不首おを拘りり。嗚呼  
 惜りも毛受勝助家照終年粵不止六歳江止伊香郡小谷  
 河原の朝露と消へ。嘆むべく哭まべ。

勝家退口寧心投府中城一属 利家全發  
 柴門草舎兩も鳴さむ。金剛玉樓風とく推く。紙袍綿誰あら

てり矢と向んや。鐵衣石裳くあり。むぢ款あり。純ある者ハ一身  
 安く。利ある者ハ遂不危。弱ふして退く者ハ存ち強ふ。

て進む者ハ亡ふ。強不苦。一さハ忠あり。我あり。百歳俱持の令  
 てもいて千年不朽の名不換ること。是や武門の本意トハ。願  
 不切なき終始あり。然ハ毛受勝助戦死。一々もバ。残る名士  
 一箇も退く。主の屍不遠くハ離まむ。暴く戦死して洞窟流  
 水只空しく。血との。残して果不たり。斯の如く時移る際  
 不。勝家王從豹と速め。後方不心の残まども路を急ぎて池を  
 まり。不。高坂の成を過る。頃。越前府中の城邊まを。ぬ。不。し。て  
 落。延。ゆり。折。せ。ゆり。府中。是。茶。田。又。老。忠。門。利。家。の。在。住。ま。む。勝。

家從公不案内せさせて。有中の城不投んと。一。つ。と。老。臣。



軍練てのふやう。利家運遣の所行へ自方不於て快う。も君此  
 城不投玉ふて。備事あつへ。勝助が忠練も亦徒とあららん。か  
 らうを所投清無用ありと稟を以勝家頼うちなり。其の汝  
 侪が主と切ふ。至忠の意より斯まて不。大持と取へ。狸ま  
 がる。茶田利家心中に勿く然せら不信不あふ。這遣江北  
 へ出陣せざるへ。原來羽柴秀吉と交誼うり。夕暮へあり。汝  
 き好の羽柴不ま。然まて不信義と違るもの。汝恩あり親  
 ある勝家不。あつら不信の不行あらん。矧や害心なき。其の  
 吾よくこれ汝案徹より。各疑ふことなう。其采城中へ  
 報至り。其ま。利家蚤即出迎へ。本丸不請答て。最涼切不  
 款待り。不ぞ勝家いと。面俯氣不。斯放軍の身ともつて

討面ぢんも慚愧す。運遣江州の軍達。皆と碎て。死  
 けまど。玄蕃盛政未熟より。獨強氣。又搦り。く。腕  
 くも。敗おな。く。釋。互。借。も。精。誠。を。う。信。不。志。の。武。士  
 むぐ。肉。親。の。甥。ぢ。れ。ば。今。猶。存。命。け。り。軍。の。級。入  
 て。戰。死。を。や。せ。り。未。練。は。似。と。と。玄。蕃。が。消。息。を  
 り。存。ぞ。る。中。の。息。子。権。六。も。玄。蕃。の。陣。一。遣。一。敵  
 たり。が。逃。解。し。と。耻。彼。人。より。莫。く。殺。戮。で。潔。く。戰。死。せ  
 より。武士ら者。生るより死する。運の所行。義。苦。み  
 名。責。り。と。て。折。憾。の。こ。ま。り。果。あ。る。遠。舟。の。終。意。を  
 家。も。く。と。言。棄。と。借。法。と。落。涙。り。鬼。の。兵。名。も。消。ぬ。べ  
 ぬ。見。る。と。悲。嘆。と。懼。り。利。家。も。不。肖。は。淨。漢。と。垂。く。み。く。い

慰めらるる。勝家海で斯るうら。是下ふこそすまじく切當  
 せさせて。禮謝する小瀬もも。源と是下い秀吉と  
 舊文も流るる。家門今も栄ゆる。料理りみさ  
 ま。といふ小利家。恥入て。機舎。病中。大切の  
 戰場。漏るる。この朽滅さよ。期なるう。秀吉運地  
 に向ふ。侍て。快く一戦を遂。自殺して。解嘲る人。といふ  
 と。勝家推返して。然るあ。佐。秀運。て。死ふ  
 ぶ。自業自得の滅亡。今秀吉。小逆。その。決。と。業  
 なること。能。是下。我。信長公の肉縁あり。備今  
 家も。是下。死。清子孫。断絶。人。只。唯。是下。小逆。秀

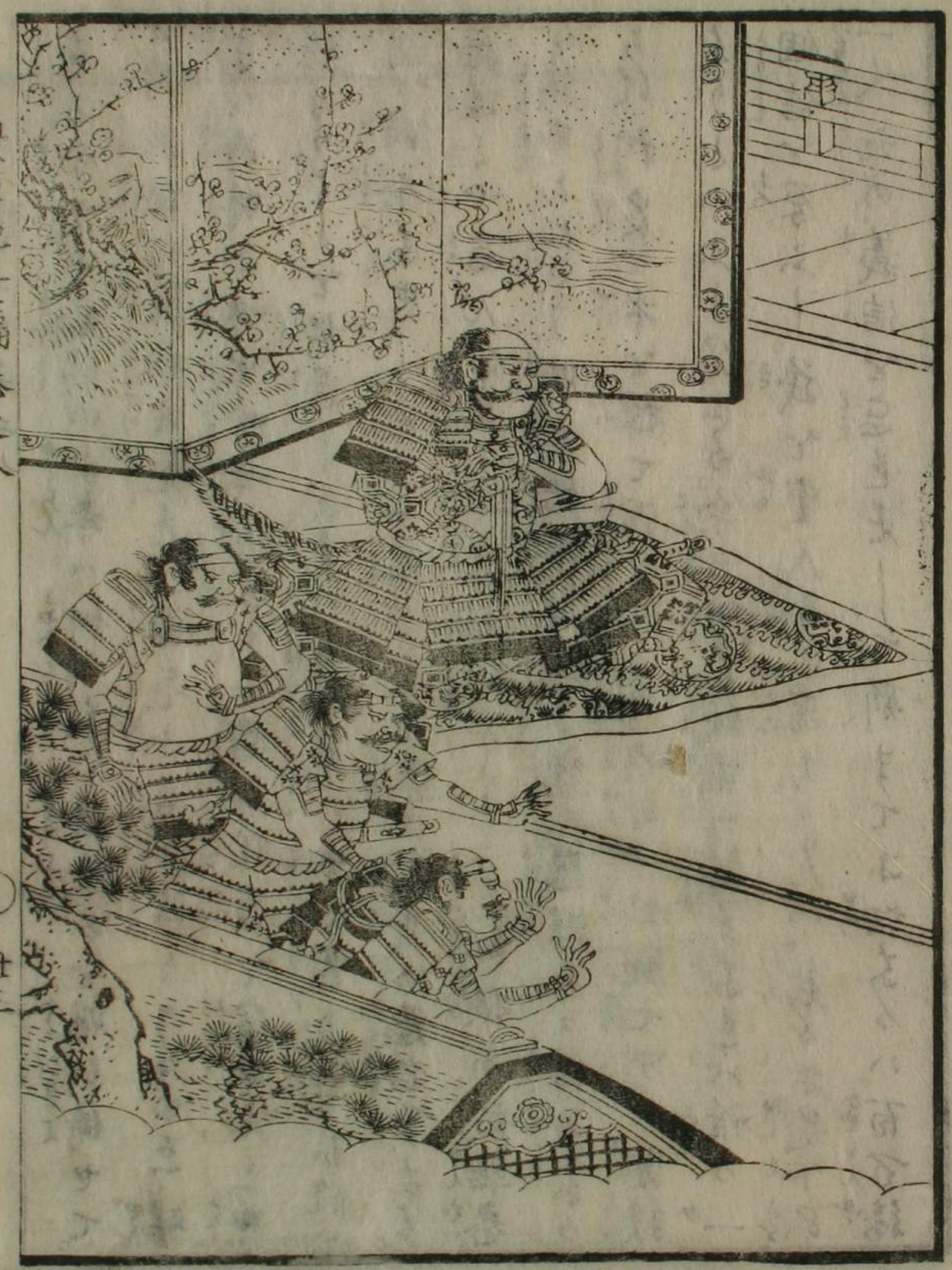
吉小帰属し。玉ひ織田家相續せ。補相せ玉へ。努く自害お  
 るべし。と。懇切。不。疎。示。一。乃。逆。不。信。受。の。龜。見。り。  
 勝家。今。心。寧。一。と。湯。食。あ。ど。と。り。り。不。利。家。酒。肴。と。調。辨  
 一。ゆ。んと。進。士。の。輩。不。命。一。り。り。時。老。臣。輩。利。家。不。勸。め。て。勝  
 家。と。殺。さん。と。只。顧。不。言。発。り。り。と。亦。た。束。つ。大。不。呵。り。斯。ハ  
 存。外。あ。る。不。我。信。あり。決。して。然。般。の。心。底。と。挿。む。べ。く。は  
 と。存。び。席。不。恙。り。り。時。勝。家。新。不。乞。り。曰。これ。今。朝。より。未  
 ぞ。食。せ。む。殊。不。乳。濁。不。堪。が。一。と。い。ふ。と。齊。一。給。仕。人。  
 昭。と。撃。て。出。来。り。勝。家。が。茶。不。供。せ。んと。さ。る。時。蠅。一。二。乾  
 翅。行。り。彼。膳。あり。り。の。椀。の。上。不。進。づ。く。よ。と。見。え。り。り。が。忽  
 地。殿。他。と。傾。落。利。家。早。く。も。これ。を。視。認。其。食。怪。一。是。え

豊日言七終巻之ノ

四一



柴田勝家  
 家小飯  
 と勸む  
 時毒ありと  
 察あき  
 前田利家  
 義  
 激



奮と命せ不給仕の少年ハ。何心なく持来ると昭引倚せて。  
 まづ液梳の蓋柱去見まば。毒氣十分不溶まらる由也。昭  
 審と即時不呼出吟味しつる不潜不勝家と害せん。慮  
 作らるしと招道しりまば。又方東の大不怒り。いつおれハ  
 涉る改企あせし。ぞが居として主不我の悪名負まらる。  
 無道とや言ん不忠とや言ん。許がしと紀様不。彼昭審  
 と極弁られし。勝家始終と得と視て感佩まらる。釋少あら  
 らば。利家が平と擗て涙を流し。昨日ハ北國七州の藩鎮  
 ありといふとつらむ。今日浩る放軍の將とあまば。誰ハ一  
 個信を厚ふし。我と重んぶる者あらんや。然る不是下只  
 一人初の義信を忘まむし。斯まで不切あるハ。百百結

の加勢も増りて候し。みおもふなり。死をとも忘まも  
 ふをままと。屢嘆して休ざりしが。今ハ今生の釋列な  
 りとして恩の倍小酒舎を喫し。菊曉の曙前ころ。利家より  
 釋して。府中と出まば。又方東門も一齊不。北庄中へ見送  
 らんと馬小うち踏出けるを。勝家止めて。そまは双方の  
 ためなり。は。を用なりと釋し。つらむ。利家も夫不。懐せ。  
 不。得小別情の惜やれて。救行の泪留敢む心なかりと。門  
 小。馬と立て。稍半時。勝家の像看るまば。目も放し。ん。こ  
 送り。い。哀しと亦。括り。う。り。

繪本豊臣勲功記七編卷之八

豊臣言七編卷之八

九三

